

回くりかえせば完璧です。

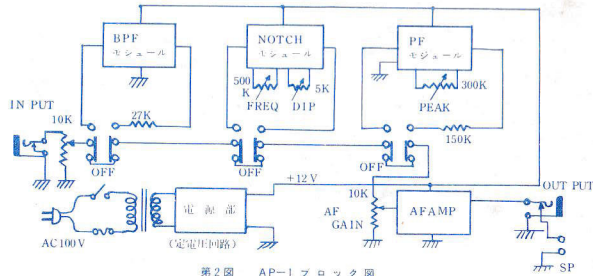
② CW受信のとき

あまり混信のないときには、BAND PASS, 必要に応じてNOTCH を使います。混信がひどい場合には、他のファンクションをOFFにして、PEAK をONにします。

PEAK FREQ ツマミをゆっくりまわします。目的の信号にチューニングすると、急に信号が大きくなります。以上の操作は一度実際に経験してみますと、すぐにのみこむことができます。

AP-1 と組合せ使用するスピーカーは、10cm以上の大きめのスピーカーを使用した方が、音質的にも聞きやすく、AP-1 の良さを発揮します。

ヘッドフォンも通信機用の8Ωのものが最適ですが、ステレオ用のものは、左右を直列、或いはパラレルにして使用して下さい。



第2図 AP-1 プロット図

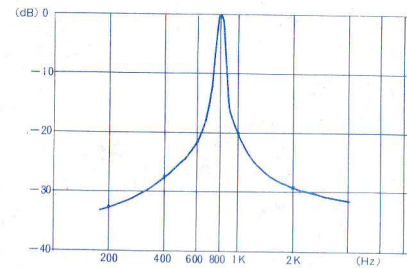
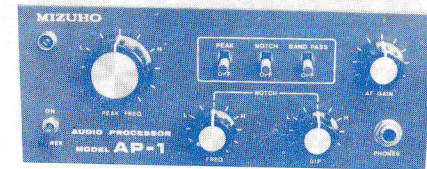
AP-1 定格

- | | | |
|--------------------------|--------------|-------------------|
| (1) フィルター種目 | (5) 電源 | AC100V 50/60Hz |
| (A) 狭帯域フィルター (ピーク) | | 10W |
| 500~1,000Hz可変 | (6) 選択特性 | |
| (B) 帯域フィルター (バンドパス) | (A) 狭帯域フィルター | 中心周波数に対し、 |
| 600~1,500Hz固定 | | 1octにて25dB以上 |
| (C) 狭帯域減衰器 (ノッチ) | (B) 帯域フィルター | 帯域外減衰1oct, 10dB以上 |
| 600~3,000Hz可変 | (7) 寸法 | |
| (2) 選択機能 | | W200×H80×D140 mm |
| 単独及び直列使用可能 | (8) 重量 | 1.6Kg |
| (3) 入力インピーダンス及びレベル 2.5KΩ | (9) 付属品 | 両プラグコード |
| -30dB (RXの8Ω SP端子接続可) | | |
| (4) 出力インピーダンス及び電力 8Ω 1W | | |

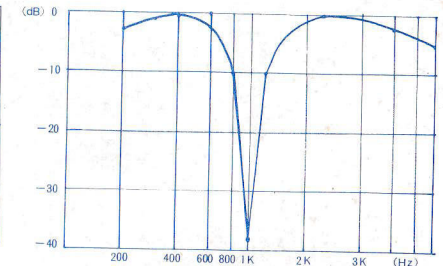
MIZUHO HAMコンポーネント

高性能アクティブフィルター群を1パック

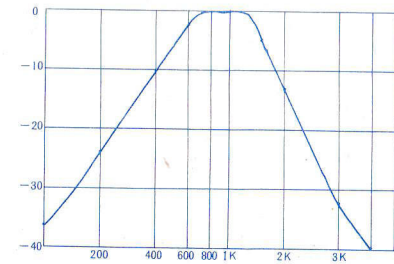
AUDIO PROCESSOR MODEL AP-1 ¥18,800



ピークフィルター特性



ノッチフィルター特性



バンドパスフィルター特性

MIZUHO ミズ市通信(株)
 事務センター 東京都町田市森野2-8-6 〒194
 電子開発センター 東京都町田市高ヶ坂1818-1
 TEL 0427(23) 1049

オーディオプロセッサとは

AP-1は受信機(トランシーバー)のヘッドフォン端子に接続して、再生された受信音を音声処理により、目的の信号のみをピックアップすると同時に狭帯域化によりSNを改善します。こんなところから、本機をオーディオ・プロセッサと呼ぶことにしました。

SSB、CWファンはもとより、AM、同じくBCLファンにも、その使用効果は著るしいものがあります。

各セクションの働き

(1) 帯域フィルター (BAND PASS)

最近話題のNBVM(Narrow-Band Voice Modulation)の思想により、従来SSBでも300~3000Hzといわれていた音声を600~1500Hzのわずか900Hzの幅で再生するのが本機です。

SSBのQSOで体験するキャリポイントの違い、チャリチャリという感じの耳ざわりになる混信があります。これが、本機の使用でスパッと切りとれます。そして1500Hz以上のノイズも消えますから、クリアーになって長時間の運用にも疲れません。

(2) ノッチフィルター (NOTCH)

受信信号に含まれた、単一周波妨害を取り除くフィルターで受信中に混入するビート或は特定箇所での混信を取り除きます。その周波数及びデップ点を自由に調整できます。

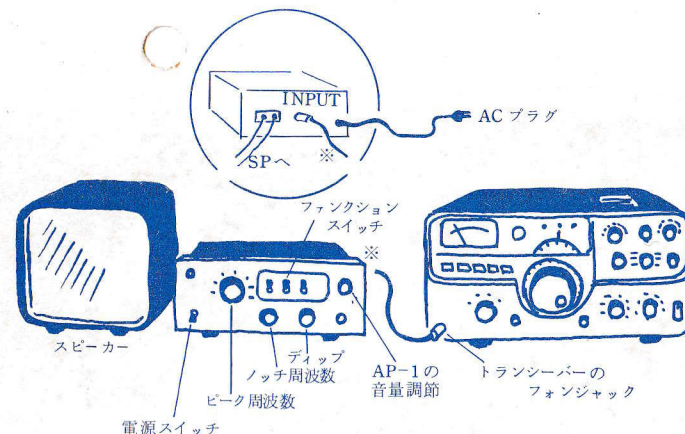
(3) CW用ピークフィルター (PEAK)

CW専用フィルターで、その通過帯域は-6dBの点で40~50Hzと驚異的な狭帯域フィルターです。

7MHzのように、ひどいQRMの中から希望する局がチューニングすることによって、浮び上がってくる様子は、見事なものです。

このピーク点のチューニング範囲は500Hzから1000KHzまで可変できます。また、DX QSO時に、強力な局のサイドにかすかに入感する信号をキャッチする時にも威力を発揮します。

AP-1は、このフィルターを通過した目的の信号を、スピーカーで聞くための低周波増幅器を内蔵し、更に定電圧電源も入っていますから、長時間安心して運用できます。混信やビート、そして高域雑音から逃れられることから、疲



第1図 AP-1の接続と各ツマミの働き

労しない、快適なQSOが楽しみ、一度使用したら手離すことができません。

使用方法

接続は、第2図のようになります。トランシーバーとAP-1間は付属の両プラグコードを使います。

リグによっては、ヘッドフォン(HPONES)端子として、3.5φジャックのものがあります。そのときには両3.5φプラグを使うか、変換プラグ等を使って下さい。

① SSB受信のとき (AMやFMも同様)

ファンクションスイッチ(PEAK・NOTCH・BAND PASS)をOFFにして、SSB局を聞いてみます。受信機(トランシーバー)のAF GAINのボリュームを上げすぎると、本機が飽和したり、音質が悪くなりますから、 $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{2}$ 位にして、あとはAP-1のAF GAINで最適な音量に合せます。この状態にしてから、BAND PASSスイッチをON(上側)にします。

高域の音がスパッと切れて、ノイズレベルも下ります。特に混信があるときに威力を発揮します。

BAND PASSにしても更にビートや、混信が耳ざわりのときにはNOTCHフィルタースイッチをONにして、FREQとDIPのツマミで、妨害電波の周波数に合わせると、その妨害を取り除くことができます。

SSBや、AM或いはFMのときには、PEAKとBAND PASSをOFFにし、NOTCHだけ働かせることもできます。

NOTCH調整のコツは、先に削除したい周波数(例えばビート)にFREQツマミを合わせます。次にDIPツマミで更に消える点を求めます。これを2~3